

【研究報告書】

子どもの手さばき等の調査

～求められる、そしてより効果的な体験活動の展開に向けて～

2016年度 (公財)兵庫県青少年本部補助事業

2017年3月

兵庫県青少年団体連絡協議会 調査研究室

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 ページ

実施調査報告・・・・・・・・・・・・・・・・2 ページ～18 ページ

1. むすぶ	2
2. 箸で豆をつまむ	4
3. ぬれぞうきんを絞る	6
4. ナイフで鉛筆を削る	7
5. はさみを使う	10
6. のこぎりで木を切る	11
7. くぎ打ち	12
8. 折り紙で鶴を折る	14
9. 道具を使わず10mをはかる	15
10. 時間ドンピシャ	17

各科目数値データ集計結果・・・・・・・・19 ページ～21 ページ

調査結果から伝えたいこと・・・・・・・・22 ページ～24 ページ

調査研究委員名簿・・・・・・・・・・24 ページ

はじめに

子どもの手さばき等調査

本年度は、子どもの手さばきを中心としながら、距離や時間などの感覚がどうなっているのかについても調査を行った。

特定の場所に子どもたちに集まってもらい、そこで集中的に調査できればよいのだが、日程の調整等難しいこともあり、兵庫県青少年本部や青团連の会員団体に関わるイベントや活動等の場を利用し実施したものと、学校の協力を得て実施できたものとを合わせて集計し、分析を行った。

イベント会場では、来場者に呼び掛けたが、過去に経験のないメニューや苦手なメニューを避ける子どもも少なくなかった。また、対象年齢以前の子どもも受け入れたので、体験した人数は多かったが、データとしては活用しないものもあった。学校では、対象学年の生徒がチャレンジしてくれたので、データ採取には大いに役に立った。

実施科目によっては、想定が十分にできなかったこともあり、ねらいに則したデータの収集が難しかったものもあった。「ぬれぞうきんを絞る」では、時間制限を設けなかったことで、あらゆる方法を駆使しながら、目いっぱい絞る子どもが多かった。「箸で小豆をつまむ」では、箸の持ち方の評価を加えず、正しく持った箸で運ぶことができたかどうか、多少疑問を残した。「道具を使わず 10mをはかる」では、歩く方向やスタート地点をその都度変えたりはしたが、待機する子どもが見ていたので、おおよその距離をつかんでチャレンジした子どももいた。しかし、どの子どもも皆、真剣に取り組んでいたし、少しでも上位の評価を得ようとの思いや意欲が伝わってきた。どの項目も、評価を受ける被験者ではなく、楽しい遊びにチャレンジしている、という姿が見られた。

今回の調査機会に際しても、子どもたちと直接話をしたり、子ども同士で話している様子からも、日常的に手や体を使う機会がかなり減っていることを実感した。この調査の結果が示すように、青少年団体は勿論のこと、家庭や地域で子どもが直接体験できる場を作ることがもっと必要である。自然体験活動等はその場面が多く取り込まれているといえよう。最近、よく行われる「アウトドアチャレンジ」もその一環であり、今回の項目にも、その手法を参考にしたものもある。

最後になりましたが、今回の調査活動でご協力いただいた団体、機関、特に授業時間を当ててご協力いただいた学校や関係者には、心より感謝申し上げます。

【実地調査報告】

1. むすぶ

◎ひもを結ぶ（リボン結び（蝶結び、花結び））

- (1)調査基準
5. しっかりと結べている
 4. 結べているが左右のバランスが良くない
 3. なんとなく結べている
 2. リボンになっていない
 1. 結べない

(2)調査結果

単位：人

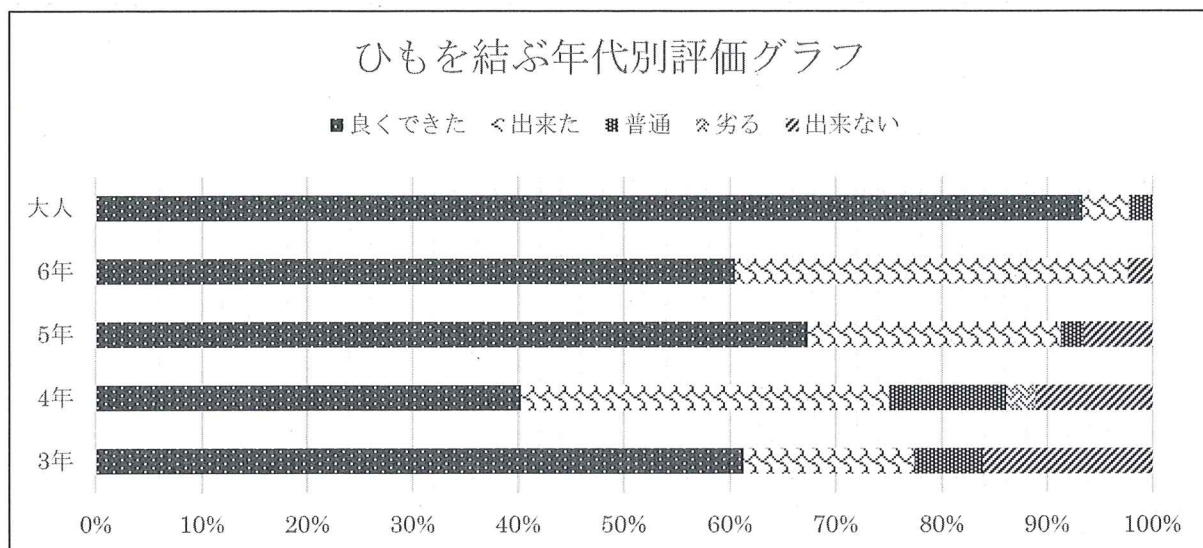
	性別	調 査 基準 5	調 査 基準 4	調 査 基準 3	調 査 基準 2	調 査 基準 1	小計	合計
小学校 3 年生	男	9	0	0	0	4	13	31
	女	10	5	2	0	1	18	
小学校 4 年生	男	12	13	2	2	7	36	72
	女	17	12	6	0	1	36	
小学校 5 年生	男	13	6	1	0	1	21	46
	女	18	5	0	0	2	25	
小学校 6 年生	男	10	6	0	0	1	17	43
	女	16	10	0	0	0	26	
一 般 (高校生以上)	男	17	0	0	0	0	17	45
	女	25	2	1	0	0	28	
小 計	男	61	25	3	2	13	104	237
	女	86	34	9	0	4	133	
合 計		147	59	12	2	17	237	
%		62. %	25%	5%	1%	7%	100%	

(3)分析内容

発泡スチロールブロックにひもを廻し、ブロックの上でリボン結びをしてもらった。最初から左右バランスよくリボン結びができた子どもは約半数。結びながらひもを緩めて調整して結べた子どもが評価5の半数程度あった。上級生になるとしっかりと結べる子どもは多かった。高校生以上ではほぼしっかり結べていた。

靴などはマジックテープやチャックで絞めるものが多くあり、結ぶ機会が生活の中で減っているようだ。

(4)分析グラフ



◎バルーンを膨らませて結ぶ

(1)調査基準 5. 結べている

1. 結べない

(2)調査結果

単位：人

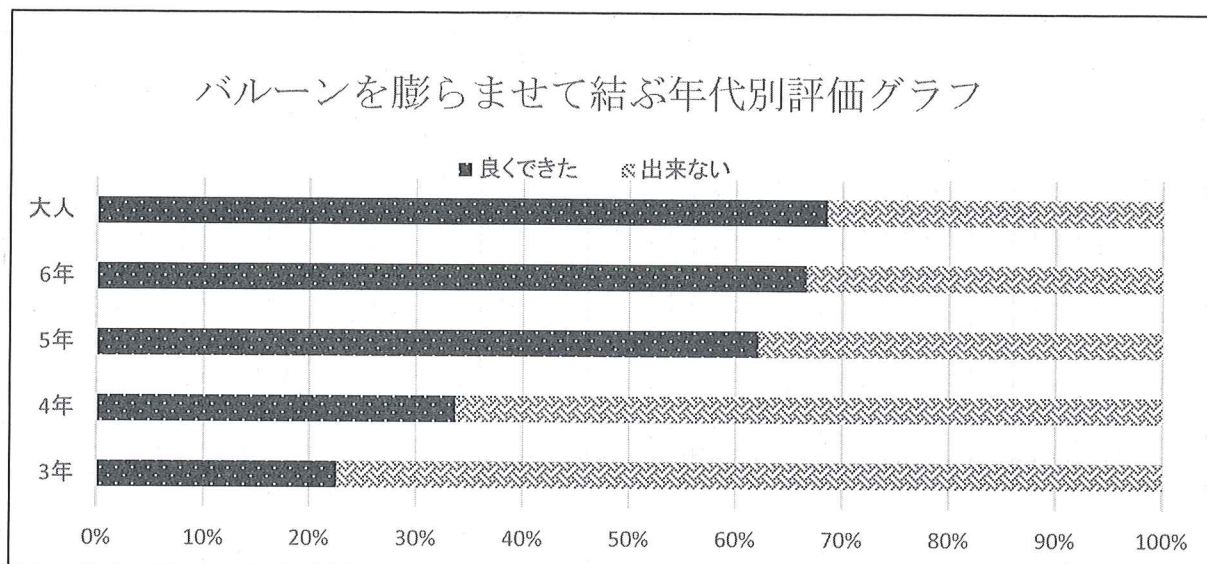
	性別	調査基準 5		調査基準 1		小計	合計
小学校 3 年生	男	3	18.8%	13	81.2%	16	31
	女	4	26.7%	11	73.3%	15	
小学校 4 年生	男	10	19.6%	41	80.4%	51	92
	女	21	51.2%	20	48.8%	41	
小学校 5 年生	男	9	52.9%	8	47.1%	17	37
	女	14	70.0%	6	30.0%	20	
小学校 6 年生	男	9	50.0%	9	50.0%	18	39
	女	17	81.0%	4	19.0%	21	
一 般 (高校生以上)	男	8	57.1%	6	42.9%	14	35
	女	16	76.2%	5	23.8%	21	
小 計	男	39	34.8%	73	65.2%	112	224
	女	72	64.3%	40	35.7%	112	
合計		111	49.6%	113	50.4%	100%	

(3)分析内容

膨らましたペンシルバルーンを渡し、丸結びができるかどうかの調査である。結べたのが、小学校 3 年生男子で 18.8%、女子で 26.7%、小学校 4 年生男子で 19.6%、女子で 51.2%、小学校 5 年生男子で 52.9%、女子で 70.0%、小学校 6 年生男子で 50.0%、女子で 81.0%、一般で男子 57.1%、女子で 76.2%という結果であった。

子どもの場合女子のほうが根気よく結ぼうとしていた。また、上級生になるほど結べる女子は多かった。男子はあきらめの早い子どもが目立った。一般男子の約 4 割が結べなかった。

(4)分析グラフ



2. 箸で豆をつまむ

〈手 順〉 1分間で器から器へ移す

- (1)調査基準
- 5. 10個以上
 - 4. 9個から8個
 - 3. 7個から5個
 - 2. 4個から1個
 - 1. つまめない

(2)調査結果

単位：人

	性別	調 査 基準 5	調 査 基準 4	調 査 基準 3	調 査 基準 2	調 査 基準 1	小計	合計
小学校 3 年	男	3	0	0	0	0	3	9
	女	5	1	0	0	0	6	
小学校 4 年	男	33	4	0	2	1	40	81
	女	37	2	1	1	0	41	
小学校 5 年	男	26	3	1	1	0	31	55
	女	22	0	1	1	0	24	
小学校 6 年	男	18	1	0	1	0	20	44
	女	23	1	0	0	0	24	
一 般 (高校生以上)	男	27	0	1	0	0	28	59
	女	31	0	0	0	0	31	
小計	男	107	8	2	4	1	122	248
	女	118	4	2	2	0	126	
合計		225	12	4	6	1	248	
%		90.7%	4.8%	1.6%	2.4%	0.4%	100.0%	

(3) 分析内容

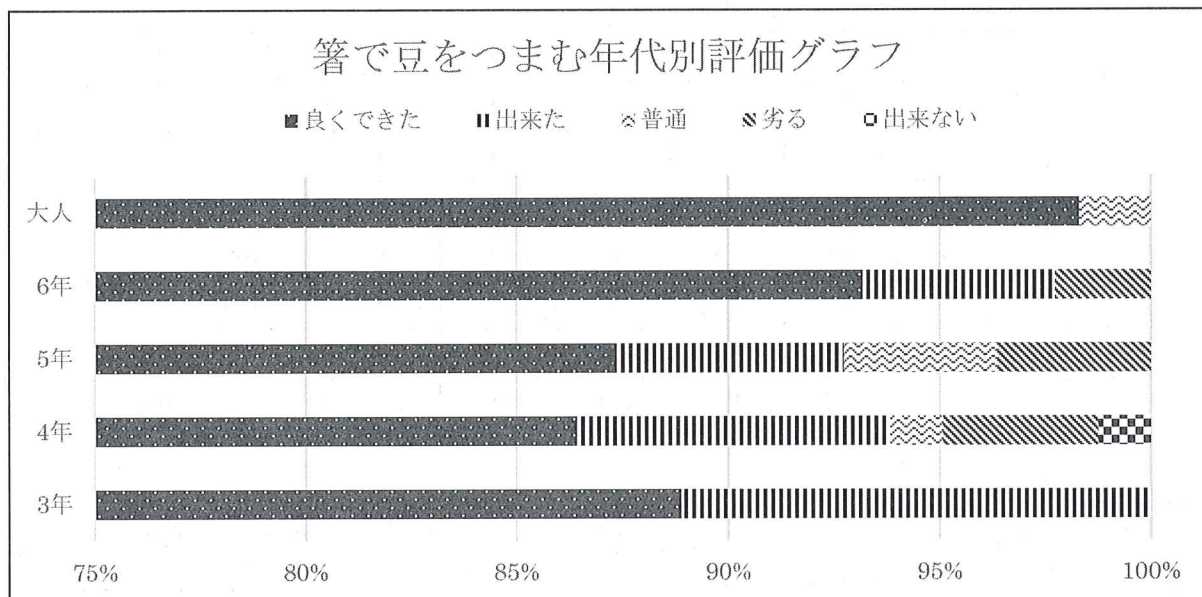
箸の持ち方を問わなければ、データで見て分かるように「良くできた」と「できた」を合わせると小学校3年から一般まで95.5%ある。しかし低学年になるほど握り箸で小豆をすくうように皿に移していたのが印象的であった。このデータには載せていないが小学校1年～2年や幼稚園児においてはもっとその傾向が強かった。

小豆をすくうように移しているのが小学校3年においては数がこなせており、「出来た」以上で100%になった。小学校3年より小学校4年が「出来た」以上が少ないのは、意識してつまもうとしているからだと思える。そばで見ている保護者も「箸の持ち方」は気にせず、1分間で何個つまめたかで一喜一憂している。箸の正しい持ち方を教えたかどうか尋ねると、「そんなことしたことない」「ちゃんとこれでもご飯食べれるから・・・」とのこと。保護者にもチャレンジしてもらおうとよく似た箸の持ち方だったりした。箸の持ち方については特に意識していない家族が多かった。

このデータが示すように「出来ない」は全体で4年生のわずか一人だけであった。年齢が上がるごとに意識してきちんと箸を使って小豆をつまみ、器に移したということであろう。

箸の持ち方は親が教えてくれた記憶がある。ご飯を食べる時、食卓に全員揃ったら、「いただきます」と言う前からご飯を食べていた。核家族化が進み、また全員揃っての食事ではなく、バラバラの食生活が、箸の持ち方など気にしない背景があるからなのかもしれない。

(4) 分析グラフ



3. ぬれぞうきんを絞る

<手 順>定められた雑巾を用意し、水に浸したぞうきんを絞り残水の重さを測る。

- (1)調査基準
- 5. 65 g 以下
 - 4. 68 g ～ 69 g
 - 3. 70 g ～ 73 g
 - 2. 74 g ～ 77 g
 - 1. 78 g 以下

(2)調査結果

単位：人

	性別	調 査 基準 5	調 査 基準 4	調 査 基準 3	調 査 基準 2	調 査 基準 1	小計	合計
小学校 3 年	男	9	3	3	0	0	15	32
	女	15	1	1	0	0	17	
小学校 4 年	男	22	11	3	0	1	37	78
	女	21	11	7	2	0	41	
小学校 5 年	男	26	0	0	0	0	26	44
	女	16	1	1	0	0	18	
小学校 6 年	男	17	5	0	0	0	22	47
	女	22	3	0	0	0	25	
一 般 (高校生以上)	男	8	0	0	0	0	8	17
	女	9	0	0	0	0	9	
小計	男	82	19	6	0	1	108	218
	女	83	16	9	2	0	110	
合計		165	35	15	2	1	218	
%		75.7%	16.1%	6.9%	0.9%	0.4%	100.0%	

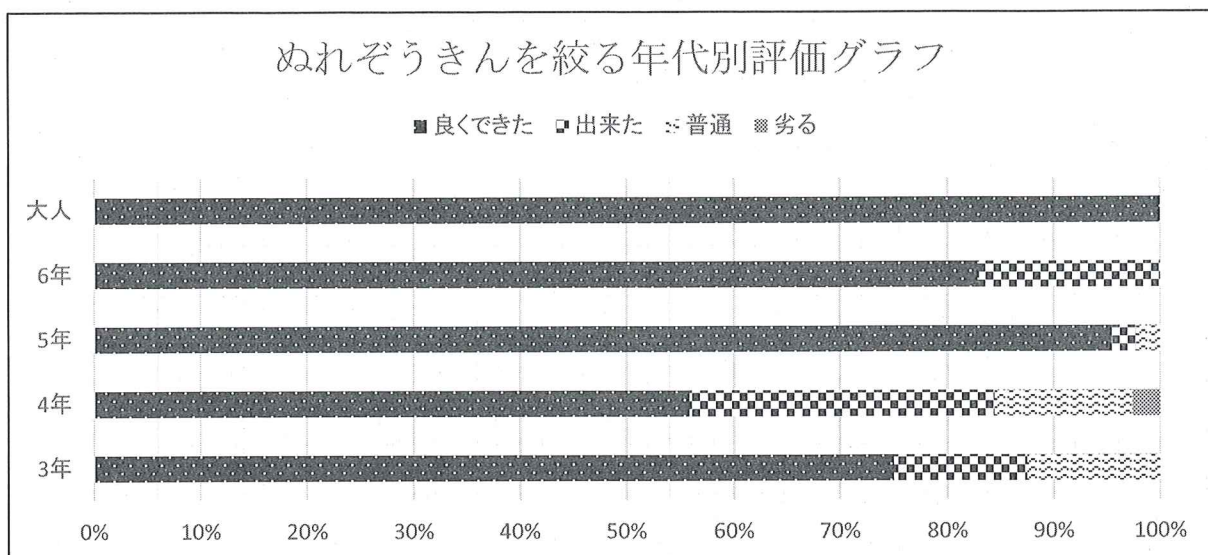
(3)分析内容

絞り方は、縦に持ち、ねじりながら絞る「縦しぼり」、横に持ち、ねじりながら絞る「横しぼり」、おにぎりを握るようにぎゅっと握って絞る「握りしぼり」がある。絞り方で断然多かったのは、横しぼりだった。従って、データの的に十分把握できていないが、正しく「縦絞り」で絞れていたのは2割に満たなかった。

6年生男女とも評価4、5が100%であり、5年生でも男女とも評価4、5が100%近い。この様に男女差はなく、学年が上がるほど経験豊富であり、握力もあるということだろうか。

これらの実態を見るにつけ、小学校の掃除の時間に生まれて初めて雑巾を絞る子が多いそうで、掃除の基本が如何に疎かになっているかがわかるといえるだろう。

(4) 分析グラフ



4. ナイフで鉛筆を削る

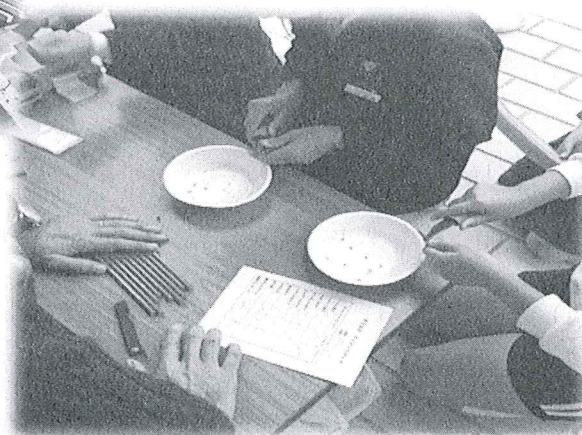
<手順> サンプルを提示し丸鉛筆を2分程度で以下の5段階の評価を行う。

- (1) 調査基準
5. ナイフを正しく使って正しく削れる
 4. ナイフを正しく使って上手に削れている
 3. ナイフを正しく使えていないが芯が出ている
 2. ナイフが正しく使えていないし、芯が出ていない
 1. 削れない

(2) 調査結果

単位：人

	性別	調 査 基準 5	調 査 基準 4	調 査 基準 3	調 査 基準 2	調 査 基準 1	小計	合計
小学校 3 年	男	0	1	6	2	3	12	27
	女	0	3	9	2	1	15	
小学校 4 年	男	9	17	13	10	5	54	94
	女	3	8	22	7	0	40	
小学校 5 年	男	4	6	12	1	0	23	43
	女	1	10	8	1	0	20	
小学校 6 年	男	8	5	3	4	0	20	46
	女	7	3	13	3	0	26	
小学生小計	男	21	29	34	17	8	109	210
	女	11	24	52	13	1	101	
小学生合計		32	53	86	30	9	210	
%		15.2%	25.2%	41.0%	14.3%	4.3%	100%	
一 般 (高校生以上)	男	5	1	1	0	0	7	19
	女	5	6	1	0	0	12	
小計	男	26	30	35	17	8	116	229
	女	16	30	53	13	1	113	
合計		42	60	88	30	9	229	
%		75.7%	16.1%	6.9%	0.9%	0.4%	100.0%	



(3) 分析内容

学年にサンプル数のばらつきが見られるが、全体の傾向や実施状況をもとに分析評価することとした。先ず日頃、ナイフ(さや付小刀)を使うこと、身近にそれがあることも、今の子どもたちにはまずないといえるだろう。困難を伴いながらも興味、そして何とか「うまく削りたい」の思いもあって皆、集中して取り組んでいた。扱い方を間違えると当然、危険が伴う。それでもまず、出来るだけ彼らの自由なやり方のチャレンジを見守ることにした。台に鉛筆を寝かせて削ったり、台に付き立て、根元に斜めから刃を入れて削る等、ほぼ初めてのチャレンジだけに子どもたちの思案工夫の予想外の方法が随所に見られた。

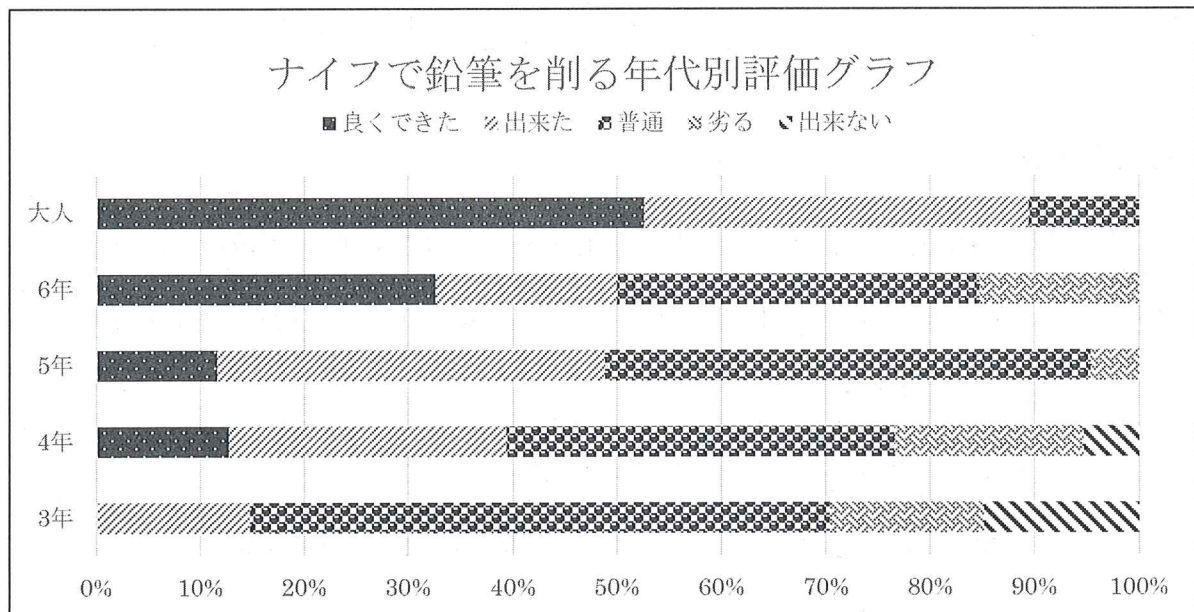
まったくお手上げ、ということもなく、なんとか少しずつナイフは入るが、思い通りには削れない。慎重さと辛抱も必要だが、徐々にあせり、雑になっていく様子も見られた。実はそうした時にケガの心配が高まる。今回の調査でトラブルはなかったが、ほぼ初体験の時期でのケガは指導者も大いに注意を払うべきだろう。使い終えた後、ほとんどの子どもがそのまま放置していた。道具の正しい扱いや基本は、せつかくの機会を生かさなければならない。「最初のように、キャップをして返してね」の掛け声で少しでも学習できたかもしれない。

上級生ほど力も備わり、それなりに取り組めてはいたが、正しいナイフの持ち方、削り方という点からすると不安もあり、力余って手がすべるといった却って危険な場面もあるように思えた。親指を当てて刃を押し出す感覚は、鉛筆を持つ手との力とタイミングが合って要領が呑み込めていく。ナイフは正しくは使えていないが、かろうじて芯が出るように削れた子どもたちが約4割と一番多かった。また、最上の「評価5」を得た子は3年生ではおらず、4、5年生では男子が多かったが、6年生では男女の差は出ていない。正しい使い方が出来ておらず、芯も出なかった子ども(評価1、2)が約2割いた。

日常的に触れ使う機会がないことが、その効用や危険性を知らない気づかないことにつながっている。

取り組む姿勢は皆真剣、一生懸命さが目に付いた。子どもたちには興味あるチャレンジだったようだ。上手な扱いや削り方、また仕上がりを見て尋ねると、親が大工さん、またこの所作は親に教えてもらった等があった。自慢気、誇らし気に見えた。

(4) 分析グラフ



5. はさみを使う

〈手順〉A4 用紙に描かれたハートの形を制限時間 1 分以内にはさみで切る

- (1)調査基準
5. 紙を動かして、線の通りきれいに切れている
 4. 紙を動かして、ほぼ線の通り切れている
 3. 少し線を外して切れている
 2. かなり線を外して切れている
 1. 切れない

(2)調査結果

単位：人

	性別	調 査 基準 5	調 査 基準 4	調 査 基準 3	調 査 基準 2	調 査 基準 1	小計	合計
小学校 3 年	男	5	3	5	1	0	14	35
	女	9	8	4	0	0	21	
小学校 4 年	男	12	14	5	4	0	35	80
	女	24	18	2	0	0	45	
小学校 5 年	男	9	9	7	3	0	28	55
	女	17	8	2	0	0	27	
小学校 6 年	男	7	5	4	0	0	16	42
	女	17	7	2	0	0	26	
一 般 (高校生以上)	男	4	2	0	0	0	6	15
	女	8	1	0	0	0	9	
小計	男	37	33	21	8	0	99	227
	女	75	42	10	0	1	128	
合計		112	75	31	8	1	227	
%		49.3%	33.1%	13.7%	3.5%	0.4%	100.0%	

(3)分析内容

丁寧に切りすぎて時間をオーバーしてしまう子どもがあった。調査基準 5, 4 を含めると 3 年生 71%、4 年生 85%、5 年生 80%、6 年生 85%、大人 100% と好成績であった。

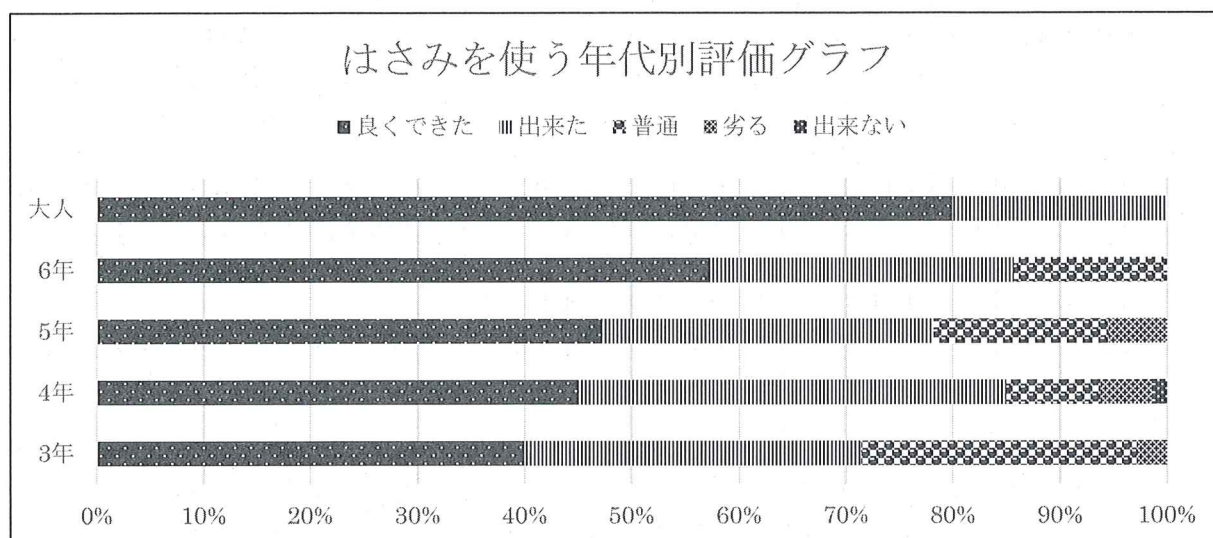
切り方は、初めから線に沿って切っていくやり方と、大雑把に切りやすい形にしてから線通りに切っていくやり方の二つに分かれた。どちらも紙を動かして切ることに変わりなかった。

学年に差はみられなかった。

約 1 割程度に左利きの子どもが見られた。「左利き用の道具」を準備していなかった。切りにくそうにしてはいたが、はさみは使いこなせていた。

男女差では調査基準 2「かなり線を外して切れている」の男子が 9% で女子には見られなかった。男子に細かい作業をするのは苦手だという意識があるのかもしれない。

(4)分析グラフ



6. のこぎりで木を切る

〈手 順〉 5分間で直径7センチの丸太を切る

- (1)調査基準
5. のこぎりが使えて、厚さが一定で、切り口がきれいに切れている
 4. のこぎりが使えて、切り口がきれいに切れている
 3. 切れている
 2. 切れなかった
 1. のこぎりが使えていない

(2)調査結果

単位：人

	性別	調 査 基準 5	調 査 基準 4	調 査 基準 3	調 査 基準 2	調 査 基準 1	小計	合計
小学校 3 年	男	0	0	3	0	1	4	11
	女	0	1	3	3	0	7	
小学校 4 年	男	3	15	14	17	3	52	87
	女	3	8	11	11	2	35	
小学校 5 年	男	4	7	6	3	0	20	34
	女	5	4	1	3	1	14	
小学校 6 年	男	6	13	10	2	0	31	65
	女	3	10	14	7	0	34	
一 般 (高校生以上)	男	7	1	0	0	0	8	12
	女	3	0	1	0	0	4	
小計	男	20	36	33	23	3	115	209
	女	14	23	30	24	3	94	
合計		34	59	63	47	6	209	
%		16.3%	28.2%	30.1%	22.5%	2.9%	100.0%	

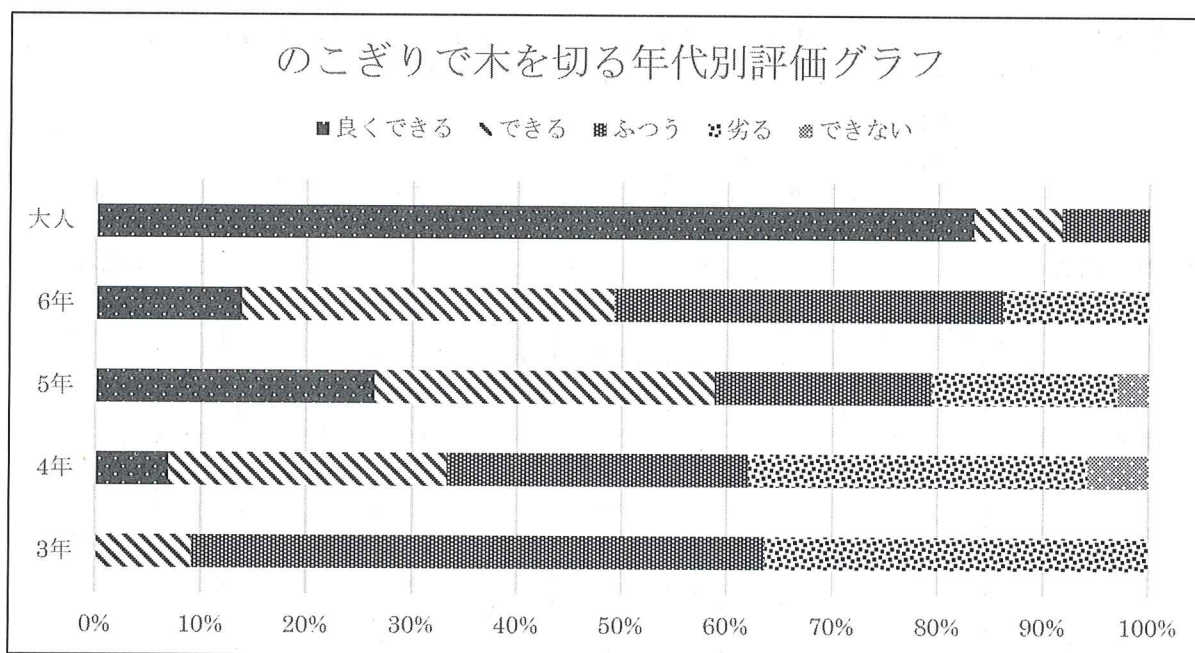
(3) 分析内容

このコーナーの参加人数は、総合計で 209 名であり、男子 115 名、女子 94 名であった。実施場所や地域により経験の隔たりがあると思われるが、よくできる(評価 5)が全体の 16%であった。できる(評価 4)を含めても半分以下の 43%であった。学年別に見ると 6 年生ではよくできる(評価 5)が 14%であるが、5 年生で 26%と倍近くになっている、4 年生では 4%、3 年生は 0%であった。できる(評価 4)を含めると 6 年生で 49%とほぼ半分ができていた。5 年生では 58%と 6 年生より高い率であった。4 年生は 33%、3 年生は 9%と学年が下がるごとに達成率が減少している。これは、家庭や地域におけるノコギリの利用経験が少ないことにより、達成率が少ないことが分かる。ただし、5 年生のできる(評価 4)含む率の高さは、原因が不明であるが、6 年生に比較しても 58%は特異な現象であった。

実施現場でのノコギリの扱いや切り方、及び切った丸太の断面を見ると、同じ大きさで断面が滑らかに切れているものは少なかった。厚みがバラついていたり、まだらな切り口が多かった。

子どもたちのこのような経験を増やしていくことで、木の温もりを肌で感じ、切断面を触ることなどで感性を磨くことができると思われるので、少年期にこのような経験をさせることは大変に良いことだと思われる。実際に 5 分程度の時間ではあるが丸太を切ることで達成感を表す子どももあり、中には綺麗に切れたことを自慢する子どももいた。

(4) 分析グラフ



7. くぎ打ち

〈手 順〉 3 分間で 3 種類のくぎを打つ(長さ 7.5cm・5.0cm・3.2cm)

- (1) 調査基準
5. 金槌を上手に使い、しっかりとくぎが打てている
 4. 金槌を上手に使い、くぎを 3 本打てた
 3. くぎを 2 本打てた
 2. くぎを 1 本打てた
 1. 打てなかった

(2)調査結果

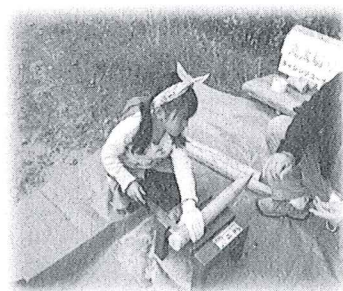
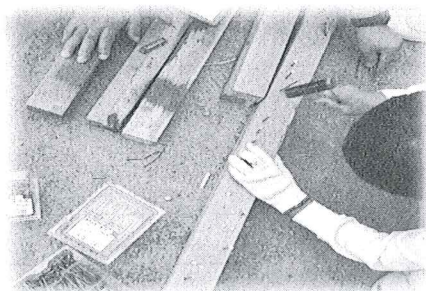
単位:人

	性別	調 査 基準 5	調 査 基準 4	調 査 基準 3	調 査 基準 2	調 査 基準 1	小計	合計
小学校 3 年	男	1	2	7	0	0	10	16
	女	0	2	4	0	0	6	
小学校 4 年	男	16	8	26	3	0	53	91
	女	11	1	25	1	0	38	
小学校 5 年	男	4	9	9	2	0	24	44
	女	5	5	9	0	1	20	
小学校 6 年	男	16	7	6	1	0	30	69
	女	11	13	11	4	0	39	
一 般 (高校生以上)	男	0	0	0	0	0	0	3
	女	3	0	0	0	0	3	
小計	男	37	26	48	6	0	117	223
	女	30	21	49	5	1	106	
合計		67	47	97	11	1	223	
%		30.1%	21.1%	43.5%	4.9%	0.4%	100.0%	

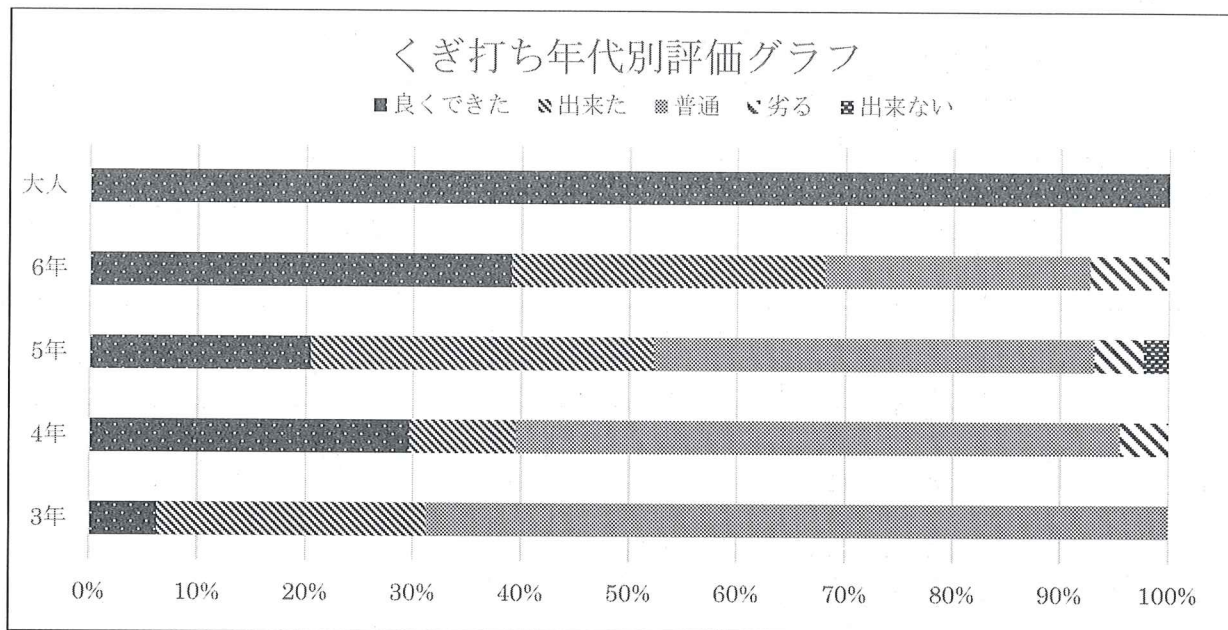
(3)分析内容

参加人数は、総合計で 223 名であり、男子 117 名、女子 106 名であった。実施場所や地域により経験の隔たりがあると思われるが、よくできる(評価基準 5)が全体の 30%であった。できる(評価基準 4)を含めると約半分の 51%であった。学年別に見ると 6 年生ではよくできる(評価基準 5)が 39%であるが、5 年生で 20%、4 年生では 30%、3 年生は 6%であった。できる(評価基準 4)を含めると 6 年生で 68%とほぼ 7 割ができていた。5 年生では 52%、4 年生は 40%、3 年生は 31%と学年が下がるごとに達成率が減少している。これは、金槌の利用経験が少ないことによるものと思われる。

また、評価基準 4 は「金槌を上手に使い、くぎを 3 本打てた」、打てたものの、真っ直ぐには打ち込めていないこと、またそのため最後にくぎの頭が木面に平行に沈まずに引っ掛かりが残る等となったことである。5 年生、6 年生のやや力任せの子どもたちにこの傾向が見られた。6 年生は 5 年生より実施評価はやや上回る状況ではあるが、2 本打ちまでで終了した者も約 30%いた、決して「こなせている状況」とは言い難い。一定のポイントに真っ直ぐ振り下ろし続けるのは、単に腕力だけのことではなく、身体全体のバランスや姿勢(ポジション)が伴う必要がある。当然、経験や学習が必要だが、今や家庭生活や日常ではその機会はなく、授業の工作やそうした機会がないと、また指導を受けることも稀と思われる。今回の場面でも「家でやったことある？」との問いには、9 割以上が「ない」と答えていた。家に金槌のない子も少なくないだろう。しかし、実家(稼業)が大工という子どもは、当然ながら「調査基準 5」だった。



(1)分析グラフ



8. 折り紙で鶴を折る

〈手 順〉折り方の説明書を置いておく

- (1)調査基準
5. しっかり折れた
 4. 少し紙のずれはあるが、折れた
 3. 折れた
 2. 途中まで折れた
 1. 折れない



(2)調査結果

単位:人

	性別	調 査 基準 5	調 査 基準 4	調 査 基準 3	調 査 基準 2	調 査 基準 1	小計	合計
小学校 3 年	男	1	2	1	0	0	4	8
	女	1	3	0	0	0	4	
小学校 4 年	男	8	17	9	9	1	44	84
	女	20	15	2	3	0	40	
小学校 5 年	男	9	4	7	0	0	20	36
	女	8	5	6	0	0	16	
小学校 6 年	男	12	8	2	0	0	26	55
	女	19	7	0	1	0	29	
一 般 (高校生以上)	男	8	1	0	1	2	12	28
	女	12	3	1	0	0	16	
小計	男	38	32	23	10	3	106	211
	女	60	33	8	4	0	105	
合計		98	65	31	14	3	211	
%		46.4%	30.8%	14.7%	6.6%	1.5%	100.0%	

(3) 分析内容

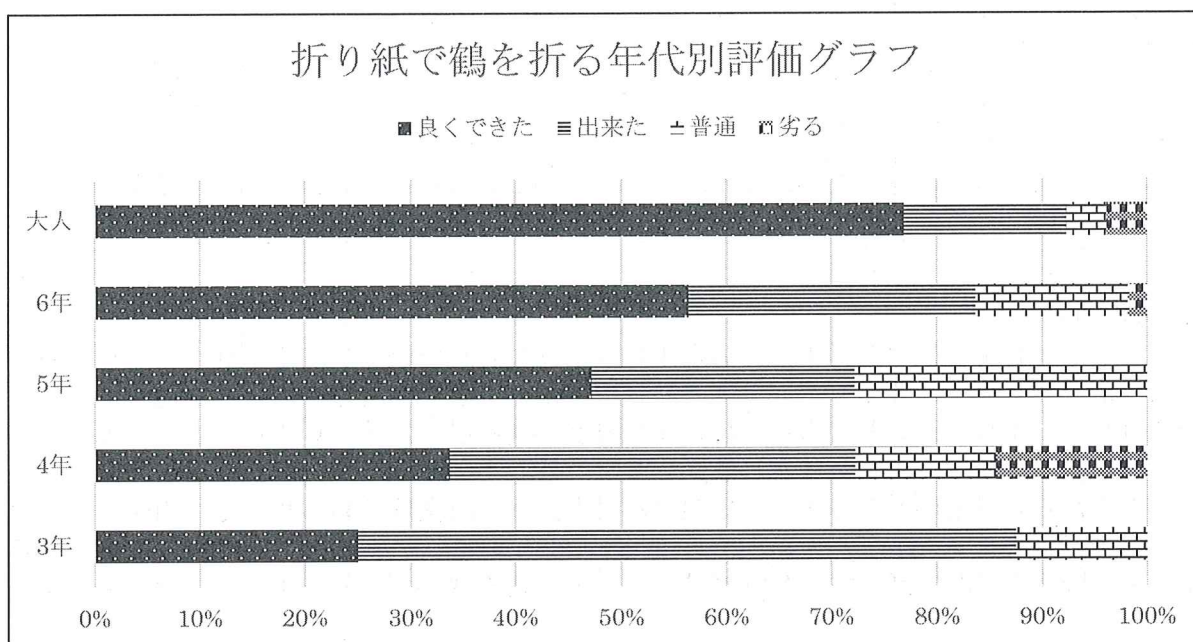
時間制限を設けず、折鶴の折り方の見本や図解を参照できることもあり、評価基準 5「しっかり折れた」、評価基準 4「少し紙のずれはあるが、折れた」、評価基準 3「折れた」を含めると 92%の子どもが鶴を折ることができていた。見本などを見て理解してしっかり折れたのは大人 71%、6 年生 57%、5 年生 47%、4 年生 33%、3 年生 25%と学年が上がるにつれて折れている比率も上がっていることが分かる。

男子と女子を比べてみると、男子 36%、女子 57%がしっかり折れていた。女子に手先を使う作業や根気強くすることが得意な子どもが多いとも考えられる。

評価基準 1 の「折れない」の子どもは一人だったが、途中であきらめてしまって完成には至らなかった。

今まで鶴を折ったことがあるか無いかの経験の有無で折れている子どもの差がついた。首や尻尾を折るときに羽の方と間違えたり、中に折り込んでひし形にするところなど、初めてでは難しく苦戦していた。

(4) 分析グラフ



9. 道具を使わず 10mをはかる

〈手順〉空間認識を測るもので、今回は 10メートルという長さを歩測により精度を視ることとした。スタート地点から到達地点までの長さを測り表の基準により評価した

- (1) 調査基準
5. 9.5m～10.5m
 4. 9m～11m
 3. 8.5m～11.5m
 2. 8m～12m
 1. 上記以上



(2)調査結果 男 130 名、女 133 名、合計 263 名

単位：人

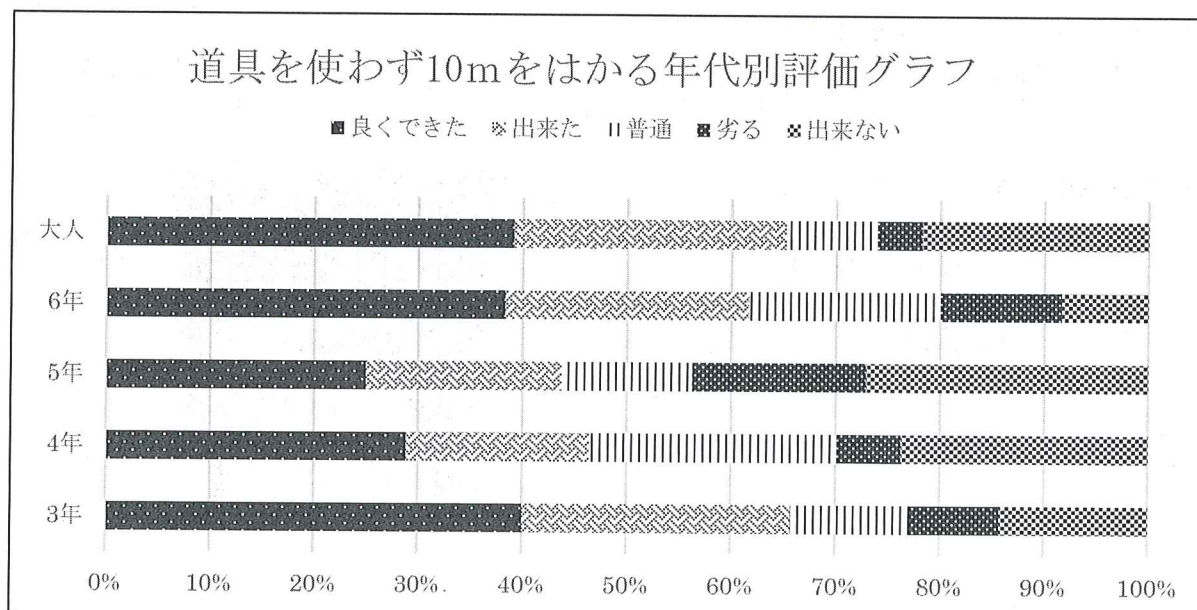
	性別	調 査 基準 5	調 査 基準 4	調 査 基準 3	調 査 基準 2	調 査 基準 1	小計	合計
小学校 3 年	男	4	5	3	0	2	14	35
	女	10	4	1	3	3	21	
小学校 4 年	男	12	13	8	5	13	51	97
	女	16	4	15	1	10	46	
小学校 5 年	男	6	6	4	4	5	25	48
	女	6	3	2	4	8	23	
小学校 6 年	男	9	6	5	3	4	27	60
	女	14	8	6	4	1	33	
一 般 (高校生以上)	男	7	4	0	0	2	13	23
	女	2	2	2	1	3	10	
小計	男	38	34	20	12	26	130	263
	女	48	21	26	13	25	133	
合計		86	55	46	25	51	263	
%		32.7%	20.9%	17.5%	9.5%	19.4	100.0%	

(3)分析内容

3年生から6年生による学年差、男女差はあまり見られない。これは10メートルという日常生活で無意識的に測定している範囲の長さであることの証左と思われる。従ってこの調査を50m、100mとして行った場合には経験年齢に応じた差が見られることも推測される。測定のみでは、10mに対し最長24m、最短4mとしたケースがあった。

子どもたちの日常の遊びやスポーツのなかでも長さの感覚は求められてる。相撲の土俵の直径は15尺(約4.55m)、サッカーゴールの間口は7.23m、センターサークルの直径は9.15m、少年野球の塁間は高校生で23mです。目測で長さを決めて活動することは楽しく大切なことである。

(4)分析グラフ



10. 時間ドンピシャ

＜手 順＞目を瞑ってもらい、スタートの合図をしてもらう。各自 30 秒になったと判断したら手を挙げてもらう。

- (1) 調査基準
- 5. 28.5～30.0 秒 30.0～31.5 秒
 - 4. 28.4～27.0 秒 31.6～33.0 秒
 - 3. 26.9～25.5 秒 33.1～34.5 秒
 - 2. 25.4～24.0 秒 34.6～36.0 秒
 - 1. 上記以外

(2) 調査結果

単位：人

	性別	調 査 基準 5	調 査 基準 4	調 査 基準 3	調 査 基準 2	調 査 基準 1	小計	合計
小学校 3 年	男	6	7	4	1	2	20	47
	女	6	6	5	3	7	27	
小学校 4 年	男	19	18	2	4	12	55	94
	女	16	11	4	4	2	39	
小学校 5 年	男	11	13	1	4	1	31	53
	女	8	8	3	2	1	22	
小学校 6 年	男	15	6	2	2	3	28	56
	女	12	9	2	3	2	28	
一 般 (高校生以上)	男	1	1	1	0	3	6	13
	女	2	2	0	2	1	7	
小計	男	52	48	10	11	22	140	263
	女	44	36	14	14	15	123	
合計		96	84	24	25	37	263	
%		36.1%	31.6%	9.0%	9.4%	13.9%	100.0%	

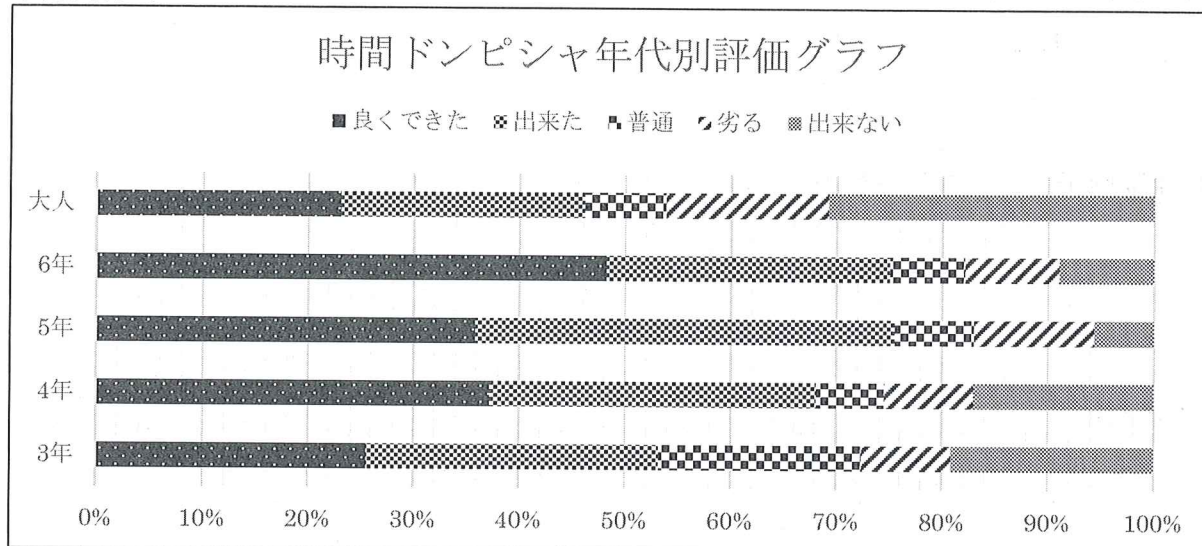
(3) 分析内容

評価基準の 5～1 の男女差は 3～5 年生においては殆どない。しかし、6 年生になると断然、評価基準 5 が増え、急激に時間感覚が良くなっている。

前後 1.5 秒差を答えた者は男女とも 40%弱、前後 3 秒差を答えた者は 3 割弱を占めている。また 30 秒ピシャリ当てた子は 31 人 (11.7%) いたが、その内、男子が 15 人、女が 16 人であった。しかも、5、6 年生が圧倒的に多かった。

時間感覚も小学校に通うようになると学校では時間通りにことを運ばなければならないということを実感するからであろう。勿論、日本人特有の「真面目」、「几帳面」という性格と関係している、ともいえるかもしれない。

(4) 分析グラフ



①むすぶ(ひもを結ぶ)集計結果

会場	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月	10	10	10	10	11	11	11	12	
日	9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	0	3	0	5	1	0	4	13
	女	0	6	0	2	7	0	3	18
	計	0	9	0	7	8	0	7	31
4年生	男	3	1	0	2	4	25	1	36
	女	1	2	0	5	2	22	4	36
	計	4	3	0	7	6	47	5	72
5年生	男	2	5	10	1	1	0	2	21
	女	3	2	4	5	6	0	5	25
	計	5	7	14	6	7	0	7	46
6年生	男	2	1	12	0	0	0	2	17
	女	1	0	11	5	7	0	2	26
	計	3	1	23	5	7	0	4	43
一般	男	15	1	0	0	1	0	0	17
	女	20	1	0	3	4	0	0	28
	計	35	2	0	3	5	0	0	45
合計	男	22	11	22	8	7	25	9	104
	女	25	11	15	20	26	22	14	133
	計	47	22	37	28	33	47	23	237

①むすぶ(バルーンを膨らませて結ぶ)集計結果

会場	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月	10	10	10	10	11	11	11	12	
日	9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	4	4	0	4	4	0	0	16
	女	4	4	0	1	6	0	0	15
	計	8	8	0	5	10	0	0	31
4年生	男	3	1	0	3	3	22	0	51
	女	2	0	0	3	3	20	0	41
	計	5	1	0	6	6	42	0	92
5年生	男	1	4	10	1	1	0	0	17
	女	1	1	3	6	9	0	0	20
	計	2	5	13	7	10	0	0	37
6年生	男	2	2	9	0	1	0	0	18
	女	1	0	11	3	4	0	0	21
	計	3	2	20	3	5	0	0	39
一般	男	12	1	0	0	1	0	0	14
	女	11	1	0	2	7	0	0	21
	計	23	2	0	2	8	0	0	35
合計	男	22	12	19	8	10	22	0	112
	女	19	6	14	15	29	20	0	112
	計	41	18	33	23	39	42	0	224

②箸で豆をつまむ集計結果

会場	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月	10	10	10	10	11	11	11	12	
日	9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	0	2	0	1	0	0	0	3
	女	0	4	0	2	0	0	0	6
	計	0	6	0	3	0	0	0	9
4年生	男	8	2	0	1	5	24	0	40
	女	11	2	0	3	2	23	0	41
	計	19	4	0	4	7	47	0	81
5年生	男	5	6	13	1	6	0	0	31
	女	5	3	4	5	7	0	0	24
	計	10	9	17	6	13	0	0	55
6年生	男	9	1	10	0	0	0	0	20
	女	2	0	10	5	7	0	0	24
	計	11	1	20	5	7	0	0	44
一般	男	10	1	0	4	3	13	0	28
	女	4	2	0	1	24	0	0	31
	計	14	3	0	5	27	13	0	59
合計	男	32	12	23	7	14	37	0	122
	女	22	11	14	16	40	23	0	126
	計	54	23	37	23	54	60	0	248

③ぬれぞうきんを絞る集計結果

会場	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月	10	10	10	10	11	11	11	12	
日	9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	10	1	0	0	4	0	0	15
	女	1	8	0	0	8	0	0	17
	計	11	9	0	0	12	0	0	32
4年生	男	1	1	0	0	5	22	0	37
	女	8	2	0	0	2	25	0	41
	計	9	3	0	0	7	47	0	78
5年生	男	2	5	14	0	5	0	0	26
	女	4	3	5	0	6	0	0	18
	計	6	8	19	0	11	0	0	44
6年生	男	3	1	7	0	0	0	11	22
	女	1	0	10	0	4	0	10	25
	計	4	1	17	0	4	0	21	47
一般	男	6	2	0	0	0	0	0	8
	女	3	3	0	0	3	0	0	9
	計	9	5	0	0	3	0	0	17
合計	男	22	10	21	0	14	22	0	108
	女	17	16	15	0	23	25	0	110
	計	39	26	36	0	37	47	0	218

④ナイフで鉛筆を削る集計結果

会場		A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月		10	10	10	10	11	11	11	12	
日		9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	3	0	0	0	4	0	5	0	12
	女	6	0	0	0	5	0	4	0	15
	計	9	0	0	0	9	0	9	0	27
4年生	男	1	4	0	0	4	24	1	20	54
	女	0	3	0	0	3	25	2	7	40
	計	1	7	0	0	7	49	3	27	94
5年生	男	2	5	13	0	1	0	2	0	23
	女	1	5	4	0	6	0	4	0	20
	計	3	10	17	0	7	0	6	0	43
6年生	男	1	2	10	0	0	0	2	5	20
	女	0	0	10	0	6	0	2	8	26
	計	1	2	20	0	6	0	4	13	46
一般	男	5	1	0	0	1	0	0	0	7
	女	6	2	0	0	4	0	0	0	12
	計	11	3	0	0	5	0	0	0	19
合 計	男	12	12	23	0	10	24	10	25	116
	女	13	10	14	0	24	25	12	15	113
	計	25	22	37	0	34	49	22	40	229

⑤はさみを使う集計結果

会場		A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月		10	10	10	10	11	11	11	12	
日		9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	5	0	0	3	2	0	4	0	14
	女	5	0	0	2	8	0	6	0	21
	計	10	0	0	5	10	0	10	0	35
4年生	男	1	4	0	1	4	23	2	0	35
	女	3	9	0	2	3	24	4	0	45
	計	4	13	0	3	7	47	6	0	80
5年生	男	1	7	13	1	4	0	2	0	28
	女	2	5	4	5	7	0	4	0	27
	計	3	12	17	6	11	0	6	0	55
6年生	男	3	1	10	0	1	0	1	0	16
	女	1	0	10	5	8	0	2	0	26
	計	4	1	20	5	9	0	3	0	42
一般	男	4	2	0	0	0	0	0	0	6
	女	1	3	0	2	3	0	0	0	9
	計	5	5	0	2	3	0	0	0	15
合計	男	14	14	23	5	11	23	9	0	99
	女	12	17	14	16	29	24	16	0	128
	計	26	31	37	21	40	47	25	0	227

⑥のこぎりで丸太切り集計結果

会場		A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月		10	10	10	10	11	11	11	12	
日		9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	1	0	0	0	0	0	3	0	4
	女	0	0	0	3	0	0	4	0	7
	計	1	0	0	3	0	0	7	0	11
4年生	男	5	5	0	2	5	16	4	15	52
	女	3	2	0	2	3	16	4	5	35
	計	8	7	0	4	8	32	8	20	87
5年生	男	2	5	8	1	1	0	3	0	20
	女	1	0	4	3	4	0	2	0	14
	計	3	5	12	4	5	0	5	0	34
6年生	男	2	3	8	1	3	0	1	13	31
	女	3	0	6	2	7	0	3	13	34
	計	5	3	14	3	10	0	4	26	65
一般	男	2	1	0	4	1	0	0	0	8
	女	0	0	0	2	1	0	1	0	4
	計	2	1	0	6	2	0	1	0	12
合計	男	12	14	16	8	10	16	11	28	115
	女	7	2	10	12	15	16	14	18	94
	計	19	16	26	20	25	32	25	46	209

⑦くぎ打ち集計結果

会場		A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月		10	10	10	10	11	11	11	12	
日		9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	6	0	0	2	0	0	2	0	10
	女	0	0	0	1	0	0	5	0	6
	計	6	0	0	3	0	0	7	0	16
4年生	男	1	4	0	1	6	21	1	19	53
	女	2	3	0	2	3	21	2	5	38
	計	3	7	0	3	9	42	3	24	91
5年生	男	2	5	13	1	2	0	1	0	24
	女	2	2	4	2	7	0	3	0	20
	計	4	7	17	3	9	0	4	0	44
6年生	男	2	1	10	0	1	0	3	13	30
	女	1	1	10	6	7	0	3	11	39
	計	3	2	20	6	8	0	6	24	69
一般	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	2	1	0	0	0	3
	計	0	0	0	2	1	0	0	0	3
合 計	男	11	10	23	4	9	21	7	32	117
	女	5	6	14	13	18	21	13	16	106
	計	16	16	37	17	27	42	20	48	223

⑧折り紙で鶴を折る集計結果

会場	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月	10	10	10	10	11	11	11	12	
日	9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	0	0	0	0	0	4	0	4
	女	0	0	0	0	0	4	0	4
	計	0	0	0	0	0	8	0	8
4年生	男	5	0	0	2	0	23	0	14
	女	7	0	0	1	0	24	2	40
	計	12	0	0	3	0	47	2	84
5年生	男	3	0	12	1	1	0	3	20
	女	3	0	5	2	2	0	4	16
	計	6	0	17	3	3	0	7	36
6年生	男	4	0	9	0	3	0	1	9
	女	0	0	11	0	0	2	16	29
	計	4	0	20	0	3	0	3	25
一般	男	7	0	0	0	5	0	0	12
	女	4	0	0	4	8	0	0	16
	計	11	0	0	4	13	0	0	28
合計	男	19	0	21	3	9	23	8	106
	女	14	0	16	7	10	24	12	105
	計	33	0	37	10	19	47	20	211

⑨道具を使わず10mをはかる集計結果

会場	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月	10	10	10	10	11	11	11	12	
日	9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	2	4	0	0	3	0	5	14
	女	4	6	0	0	7	0	4	21
	計	6	10	0	0	10	0	9	35
4年生	男	1	1	0	0	5	24	1	19
	女	5	2	0	0	3	23	3	46
	計	6	3	0	0	8	47	4	97
5年生	男	5	4	12	0	2	0	2	25
	女	5	3	4	0	7	0	4	23
	計	10	7	16	0	9	0	6	48
6年生	男	3	0	10	0	0	0	2	12
	女	0	0	10	0	6	0	2	15
	計	3	0	20	0	6	0	4	27
一般	男	11	0	0	0	0	0	2	13
	女	3	0	0	0	5	0	2	10
	計	14	0	0	0	5	0	4	23
合計	男	22	9	22	0	10	24	12	130
	女	17	11	14	0	28	23	15	133
	計	39	20	36	0	38	47	27	263

⑩時間どんぴしゃ集計結果

会場	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
月	10	10	10	10	11	11	11	12	
日	9	15	20	30	3	8	23	6	
3年生	男	7	2	0	0	6	0	5	20
	女	6	8	0	0	9	0	4	27
	計	13	10	0	0	15	0	9	47
4年生	男	6	2	0	0	5	24	1	55
	女	3	2	0	0	2	23	3	39
	計	9	4	0	0	7	47	4	94
5年生	男	0	5	13	0	4	7	2	31
	女	4	3	4	0	7	0	4	22
	計	4	8	17	0	11	7	6	53
6年生	男	3	1	10	0	0	0	2	12
	女	2	0	10	0	6	0	2	18
	計	5	1	20	0	6	0	4	30
一般	男	5	0	0	0	0	0	1	6
	女	3	0	0	0	4	0	0	7
	計	8	0	0	0	4	0	1	13
合計	男	21	10	23	0	15	31	11	140
	女	18	13	14	0	28	23	14	123
	計	39	23	37	0	43	54	25	263

調査研究実地調査経過

会場 実施日 2016年 実施会場

A 10月9日(日) 明石市陸上競技場

B 10月15日(土) 加古川市日岡山

C 10月20日(木) 西播磨地区 小学校

D 10月29日(土) 丹波市たんばの森公苑

～30(日)

E 11月3日(木) 北区栗ノ木台公園

F 11月8日(火) 西播磨地区 小学校

G 11月23日(水) OAAはりまハイツ

H 12月6日(火) 西播磨地区 小学校

*会場のA～Hは〈科目数値データ集計結果〉
の各グラフに表示されている会場を示す。

【調査結果から伝えたいこと】

1. 手さばき体験は脳の発達を促進させる

手と指は第2の脳と言われ、手や指を動かすことにより、脳の血流がアップし、脳内で情報を伝えるシナプス（神経中枢の情報伝達のための接合部、あるいは接触構造）を発達させることは、近代生理学では一般的に理解されている。つまり、指先を使う遊びや生活を子どもが数多く体験することは、脳の活性や発達につながるといわれている。

カナダの脳外科医ペンフィールド(1891～1976)は人間の身体の様々な部位が、大脳のどこに対応しているかを示す脳地図を作成し、さらに脳の各部位の対応領域の割合の大きさまで解明した。これを表したのが「ペンフィールドのマップ」(下図)と呼ばれるもので、身体各部位の大きさと脳地図で対応している大きさが、比例した関係にはなっていないことが分る。この図では、大脳の上の部分は足の指、すなわち全身のごく下の部分、そして大脳の下の部分が喉や嚥下(えんげ=飲み下し)と、全身の上の部分であることがわかる。

大脳表面に広がる大脳皮質は知覚、随意運動、思考、推理、記憶など脳のもっとも高次の機能をつかさどる大切な部分であり、この部位の発達は人間にとって重要なものである。

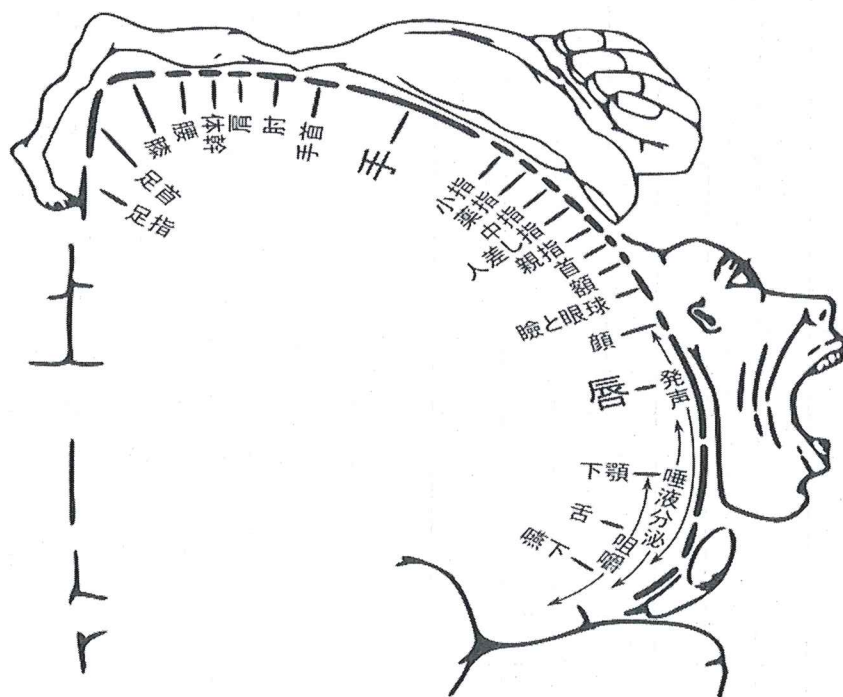
このマップでは、頭部以外では、手先の優位度の高さがとてもよく分かる。今日、手の運動が、認知症予防として取り入れられているのは、手の果たす役割が大きい事がわかったためといわれる。物忘れの予防や、脳の働きを維持することに繋がっている事例も多いとされる。

こうしたことから、よく噛んで食べること、さらには手先や指等を使う行為や運動は理にかなった脳活性だといえるだろう。

今日の子どもたちは、手を使うことが苦手のようなのである。箸を正しくまともに持って使えない、生卵が割れないなど。その背景には現代文明の影響があることは否めないが、身体機能のしなやかさや巧緻性、さらには生き物としての息吹に欠ける側面が見えてくるとすれば、それは大いに危惧しなければならない。

青少年団体活動ではもちろん家庭や地域でも、安易な道具に頼りがちになることが、手や指を使う機会が減少することにつながることを認識し、できるだけ手間暇かけて行うことを躊躇なく取り入れることを心しておきたい。そして、指先を使う遊びや生活を子どもが数多く体験することが、脳の発達につながることをしっかりと認識しておこう。

ペンフィールド 脳の部位と体性感覚野の地図(池谷祐二著『進化しすぎた脳』2007 より)



2. もっと日常生活体験を

日常の暮らし、特に家事労働には洗う、しぼる、拭く、たたむ、包む、掃く、すくう、重ねる、切る、並べる、折る、結ぶ、つなぐ等など、多くの動作があり、道具を使うことも数多くある。これらをこなすことにより、工夫や応用する機会も増える。そして、子どもたち次世代に教え、伝える。さらに自らも継続し、繰り返すことによって、人間本来の持つ能力が退化することなく維持され、受け継がれ、その結果、人間は文化の担い手として生きていくことができるのである。

これまで日常生活で学び、身に着ける能力は家庭で親がモデル、時に指導者となって直接間接に示し、子ども達はそれを学び身に付けてきた。これらは日常生活能力であり、兄弟でも教えられる技能だった。今日、そうした学びの場面、機会が激減している。今では、それらの多くは学校での体験やキャンプで初体験に近い出来事になる。

便利で快適になる一方、身の回りのことが自分でうまくこなせない子どもたちが増えていく。どうやら親や大人達も、どう教えてよいのか手詰まりに近い状況のようだ。親たちもすでにあまり器用ではない。ここは一度、頭を切り替えて、端末ボタンの操作とは違う手さばきの意味と価値を意識し、伝えながら、一緒に家事労働から行動を起こしてみよう。日常生活における生活技術を積み重ねることから、きっと視野と思考の幅が広がっていく。上手さ、巧みさの自信や自慢の思いは、心の安定感にも繋がっていかないだろうか。

ここでは、「刃物」「結ぶ」について、少しふれてみたい。

【刃物】

家庭からナイフやこぎり、金槌などが消えた。さらに、子どもの世界からも刃物が姿を消した。昭和35年当時、ナイフを使った衝撃的な事件が起きる。それまで子どもの必需品でもあったナイフは姿を消し、持たせない指導が始まる。削ることや遊びにはナイフはつきもので、だからこそ手入れも保管にも慎重だった。家庭や学校には鉛筆削り器が設置され、子どもの前から刃物が消えていく。使うからこそ危険性も理解し、扱い方も慎重になる。道具の扱いが身につくことで、安全能力も高くなる。

【結ぶ】

テントやモンゴルのゲルなどは結ぶ動作がなければ建てることができない。風呂敷を使うにも靴を履くにも結ぶという動作が必要。物をつなぐ最初の動作である。しかし、結ぶ動作も身の回りから消え、なくなりつつある。マジックテープや結索バンドなどの出現、結びの要らない用品が増えてきたからだ。便利さだけを求めるのではなく、失敗を繰り返し、能力を高め、工夫し、応用する力を身に付けることを大切にしよう。

3. 五感を使う

日常の生活やプログラム活動の中で、もっと五感を生かす取り組みを工夫してみよう。五感を使うことによって脳に刺激を与え、感性が鍛えられる。五感を使うことで磨かれる。

手先、指先など、身体の手先は他の身体部位よりも感覚が敏感である。その機能を生かし、道具や素材(材料)の扱いに、日頃から慣れておくことも肝要である。何よりも子どもたちが、自分の体の機能や感覚について興味を持ち、それを生かし、その能力の向上に関心を向けるようになることを期待したい。そのためには、こうした経験や体験が、十分楽しめるプログラムの工夫もまた必要となる。

(1) 触る・つかむ・持つ (触覚)

身の回りにあるもの、自然の中にあるものに触れてみる、毒性があったり、かぶれる可能性のものは避けたり、アレルギーにも気をつけながら、木の肌、葉、草、虫、カエル、石、野菜や果物、肉や魚を触ってみよう。つかみ持ち上げると、見た目と違い重い軽いが意外にあったりするかも。

(2) 見る (視覚)

遠くにあるもの、近くのもの、虫めがねの世界など見方、視点を変えると見えるものも違って来る。野菜や果物、動物や鳥、爬虫類(はちゅうるい)や魚類、人、花や木、草、空の雲、夜空の星など様々なものを見よう。色々な色を探したり、スケッチしながらの散歩も楽しい。

(3) 聞く (聴覚)

耳を澄ませるといろいろな音が聞こえる。街中、自然の中で鳥の声、動物の声、昆虫の鳴き声などを聞こう。目を閉じて静かに聞くと、遠くの音も聞こえてくる、風の音も聞こえるかも。

(4) におう (嗅覚)

住んでいる家、地域そして町にはひょっとして匂いに特徴や個性があるかもしれない、自然の中に入ってもそれはあるかも、いろいろなお店や工場やゴミの匂いも。花、果物、魚、食べ物、ちょっと勇気を出して土や虫等のおいもかいでみよう。

(5) 味わう (味覚)

味を見分ける舌の感覚は子どもの時期に強く宿るといわれている。偏ることのない様々な食べ物の味を体験しよう、地域によって水の味が違ったりもする。指導者のアドバイスを得ながら、ドングリや木の実の味も確かめてみよう、渋柿って果たして渋い？

4. 体験活動は一人ひとりに応じた取り組みを

集団で同じことを体験しても、感じ方、受けとめ方、さらに学びのポイントは個々人多様、そのひとり一人の違いを理解し、それぞれに合った対応がやはり求められる。互いの違いを学ぶことも体験活動の大切な部分であるはず。見方、考え方、関心度の違い、動きの早さ、得手不得手等を理解し、柔軟に取り組みを進めることが大切。多様性を正しく理解することが、自分の個性を理解し、向上させることにつながっていく。

2016 年度 兵庫県青少年団体連絡協議会 研究室委員

(順不同 敬称略)

山口 徹	神戸YMCA名誉主事 兵庫県青少年団体連絡協議会 顧問
速水順一郎	(一財)いえしま自然体験協会 理事 兵庫県青少年団体連絡協議会 会長
清水 勲夫	(一財)OAA(野外活動協会)専務理事 兵庫県青少年団体連絡協議会 副会長
岡本 光司	兵庫県世界青年友の会 会長 兵庫県青少年団体連絡協議会 副会長
南 秀生	日本ボーイスカウト兵庫連盟 事務局長 兵庫県青少年団体連絡協議会 監事
西谷 成子	(一社)ガールスカウト兵庫県連盟 連盟長 兵庫県青少年団体連絡協議会 運営委員
田中 雅子	(一財)OAA(野外活動協会)総務主任

兵庫県青少年団体連絡協議会

〒650-0011 神戸市中央区下山手通 4 丁目 16-3

兵庫県民会館 8 階

公益財団法人 兵庫県青少年本部 活動支援部 内

☎078(891)7410

